

わたしの城下町

小池有二（19期/昭和43年卒）

雑文ですが、小生が訪れた城下町の記憶を書きます。

愛媛の松山は松江と似た雰囲気がある街でした。

元々、出雲松江藩と伊予松山藩は徳川の親藩で素性が似ています。明治維新では態度あいまいで長州からにらまれた歴史は同じだし、昭和になって観光プロモーションに力をいれて、温泉と乗物を観光に活かしたのも似ています。松江には堀川遊覧があって、松山には、ぼっちゃん列車があります。

松江には松平直政騎馬像が、松山には築城者・加藤嘉明騎馬像があって、こういう勇ましい像を置くのは元親藩の心意気でしょうか。旧領主を見るカルチャーはいろいろで、外様上杉の米沢には上杉謙信像と上杉鷹山像がありますが、どちらも地味な座像でした。松山から南の宇和島には宇和島城があります。ここは本丸に登る坂道がたいへんな急坂でしかも巨岩がごろごろして登りに汗がでました。本丸にはポツンと天守閣があるだけです。宇和島の人はお城に興味がないようです。早々に城から降りて、鯛メシを食べに行こうぜ、というのが本音でした。滋賀の湖東、長浜の駅前には秀吉と三成の出会いの像がありました。石田三成は敗軍の将ですから一般に歴史ではマイナーな扱いをされますが、地元では尊敬の念を込めてみられるようです。長浜は秀吉が築いた城下町でしたが、徳川時代にはそういう過去がうとんじられたらしく、城は廃止され、以降長浜は北国街道の宿場町として生き残ります。なので、残念ながら、秀吉・三成像は観光プロモーションの中で浮いた存在です。

長浜の南の彦根は徳川の譜代筆頭の井伊氏の城下で、いきなり駅前に井伊直政の勇ましい騎馬像が置かれていました。彦根城は掘割がきれいに残っていました。彦根東高校は藩校からはじまる歴史が古い学校で、お城の堀の内側にありました。本丸から降りて歩くと堀の外へ出る前に彦根東高の前を通るとい道筋になります。これは、さすがにという驚きでした。松江北高もお城の近くですが、城の外に作った旧制松江中学にはじまります。

わたしが長浜、彦根を訪れたのは2016年の秋でした。この年は湖東3市で「MEET三成」と銘打った石田三成キャンペーンが張られていて、彦根もメンバーだから駅前に「MEET三成」の旗がなびいていました。主催団体は、「びわ湖・近江路観光圏活性化協議会」。こういうプロモーションは難しいですね。井伊氏は三成の居城だった佐和山をきらって彦根の平地に築城した、そういうツッコミをしてはいけない。



最後に、東京、江戸城です。旧江戸城の西側は皇室御在所として残り、北側と東側が北の丸公園、皇居東御苑として一般公開されています。東御苑の天守台跡から見る、広い芝生とその向こうのビル群の眺めは素晴らしいものです。ご存知の通り、東御苑には即位の儀の大嘗宮が建てられましたが、近いうちに取り壊されて、芝生に戻されるようです。見学を終えて丸の内に向かって大手門の高麗門を出たときの景色、やっぱり東京は城下町だなーという気分になります。

各地に歴史のある城下町があります。少し歴史を勉強して出かけると、目に見えるものの理解ができて、楽しめます。

令和元年 12 月 21 日